

筋骨格系および結合組織の疾患

文献

柴伸昌, 並木文代. 変形性膝関節症に対する精油使用施術 (マッサージ) の有効性について 外用消炎鎮痛剤を対照としたランダム化比較試験. 日本アロマセラピー学会誌. 2010; 9(1): 36-42. 医中誌 web ID 2011149782

1. 目的

変形性膝関節症に対する精油使用施術 (マッサージ)の有効性評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験

3. セッティング

患者の自宅

4. 参加者

Kellgren-Lawrence の分類でステージ II 以上の変形性膝関節症と診断された 50 歳以上の患者 40 名(女 31 名、男 9 名)

5. 介入

Arm 1: 精油使用施術群 20 人 (女 13 名・男 7 名、平均年齢 70.7 歳)

Arm 2: 外用消炎鎮痛剤群 20 名 (女 18 名・男 2 名、平均年齢 70.2 歳)

方法: セルフケアにより、朝夕の 2 回、2 週間連続して精油オイル(1%真正ラベンダーと 0.5%ローズマリーカンファの混合液希釈油)と外用消炎鎮痛剤ゲル (ジクロフェナクナトリウムゲル)を使用した軽擦法を、疼痛部を中心に 2~3 分間行わせた。

6. 主なアウトカム評価項目

圧痛、JOA スコア、JKOM、TUG、安静時痛、オリジナル・アンケート

7. 主な結果

試験開始後 2 週間後、4 週間後とも圧痛、JOA スコア、JKOM の痛み・こわばりの項目に精油使用施術群両群・外用消炎鎮痛剤群のいずれも有意に改善 ($p<0.05$) を認めたが改善率では両群間に有意差は認めなかった。ただ、JKOM の ADL 項目は前者の改善率が有意に高かった ($p<0.05$)。一方、JKOM の健康状態項目は両群とも有意な変化はなかった。また、外用消炎鎮痛剤群の 1 例に色素沈着が残存する皮膚障害を認めたが精油使用施術群では有害事象は認めなかった。アンケート結果では、両群とも半数以上が使用継続を望んでいた。

8. 結論

精油使用施術の効果は外用消炎鎮痛剤に匹敵することが示唆された。

9. 論文中の安全性評価

皮膚障害発現の有無。

10. Abstractor のコメント

本研究は、症状が固定した慢性の膝 OA 患者に対する精油を使用した軽擦法の有効性について外用消炎鎮痛剤を使った同療法と比較検討した RCT であり新規性が高い。また、患者の自宅で行うセルフケアの有用性に着目した点も高く評価できる。ただ、今回の試験では無処置群ないしプラセボ群を設定しないデザインで行われている。この方法では確認された有効性が精油の薬理効果によるものか軽擦刺激によるものか、それとも両者の複合作用によるものかが判然とせず精油の有効性を論ずることはできない。人口の高齢化に伴う膝痛の有訴率が高くなる地域社会を想定したとき、簡易なセルフケアに着目した本研究の意義は、医療経済学的な観点からも大きい。症例数をさらに増やした上で、キャリアオイルを用いたプラセボ群、あるいはマッサージ単独群等の対照群を設定した今後の研究に期待したい。

11. Abstractor and date

藤井亮輔 2015.3.24